

産学官の連携による技術・技能人材育成への取組を積極的に行っている中小企業

岡山県苫田郡の池田精工株式会社(従業員43名、資本金2,000万円)は、ステンレス部品の加工を行っている企業であり、同社の製品は、医薬品や清涼飲料水などの液体をボトルに充填するサンタリー充填機等に用いられている。特に、サンタリー充填機用の部品については、当社売上の50%以上を占め、独自の特殊ノウハウでノズルやバルブなど主要部品のほとんどを製作加工しており、品質と信頼性の高さから安定した受注を受けている。

同社は、地域の産業活性化のために、地域の同業者等とともに、津山の「ステンレス加工基地化」に向けた取組を進めており、2007年に、つやま新産業創出機構が中心となり、津山高等専門学校、岡山県工業技術センター、地域の同業者23社等で結成した「津山ステンレスクラスター」に参加している。

「津山ステンレスクラスター」では、技術の補完、設備の共同利用、共同受注のほか、「技術人材育成カリキュラム」を作成し、産学官の連携による技術・技能人材育成の取組に力を注いでいる。当該カリキュラムでは、ステンレス加工に必要な機械加工、板金加工、溶接の3部門の技術を複合的に修得させることを目的としており、基本技術を学ぶ「標準レベル」と実務に必要な「専門レベル」の2段階を実施している。「標準レベル」は主に津山高等専門学校の教授などが、「専門レベル」は主に企業の技術者などが講師となり、高専の施設や参加企業の設備や人材を活用している。これらの取組は、他企業の技術者と切磋琢磨することによる若年技術者の技能レベルアップはもちろんのこと、情報交換等を行う交流の場としても機能している。

同社の池田晃社長は、「製造業においては、固有技術の積み重ねが技術革新や新製品開発につながると思う。技術者が高度な技術の修得を目指すことで、社内に競争ができ、よい技術者の確保にもつながる。」としており、今後とも技術・技能人材育成の重要性は高まっていくと見ている。

